

テレワーク導入事例活用セミナー

テレワークが日本の中小企業を
元気にする



《会社概要》

会社名 **株式会社 WORK SMILE LABO**

2018年9月13日より社名が変わりました

所在地 **岡山市南区福浜町15-10**

設立 **明治44年(1911年)創業**

従業員 **35名(男性17名、女性18名)**

経営理念 **「働く」に笑顔を!**

業種 **笑顔溢れるワークスタイル創造提案業**



会社概要

私たちは、もともと筆や墨の販売で創業し、時代の流れと共にオフィス家具・OA機器の販売を中心とした地域の事務機屋でした。

数年前に他社との差別化をするにあたり、お客様に「より良いワークスタイルを提案する」会社になるために我々の業種を

『笑顔溢れるワークスタイル創造提案業』
と変えました。

中小企業へより良い働き方を提供するにあたり、まずは**自社の働き方における様々な課題を解決することで、お客様へノウハウを含めたご提案**を行っております。

地方の中小企業がなぜ、テレワークを始めたのか？

2016年4月、一番はじめのキッカケは

- 小さな子供のいるパート社員が、以前は子供の急な病気で休むことが多かった。
- 休む方も・休まれる方も双方に負担があった。

少ない人数で運営している中小企業では、
代わりの人材がおらず、業務へ与える影響は
大きいことが実状。

口には出ませんが、 お互いこんな風感じていました



休む側

- 急な欠勤で会社や仲間に迷惑をかけるのが心苦しい
- 休んだ分、収入が減る

休まれる側

- 一人当たりの仕事量や負担が増え、残業が発生する



また出産などの際も今までは退職するか、復帰をしても時間の都合でパート社員としての雇用しかできなかった。

テレワーク活用の動画を
ご覧ください

導入効果（仕事とプライベートの両立）

子供による急な休みに対応できるようになった



弊社女性社員
在宅ワークの1日



＋の効果

通勤時間が無くなり、尚且つ仕事の合間の休憩時間に家事を行うことができ、生活にゆとりが生まれた

社内と同じ環境で仕事が出来ながら、電話対応・来客対応が無い分、専門業務の生産性が向上

導入効果

全社員テレワーク活用による生産性の向上 (残業時間の削減)

残業時間 (一人平均)

業績

【2016年6月】内勤メンバーへのテレワーク導入

【2016年6月】内勤メンバーへのテレワーク導入

2016年2月 41.7時間/人	➔	2017年2月 18.9時間/人	=	54.7%減
2016年3月 48.4時間/人	➔	2017年3月 23.5時間/人	=	51.5%減
2016年4月 56.6時間/人	➔	2017年4月 26.2時間/人	=	53.8%減
2016年5月 33.8時間/人	➔	2017年5月 22.3時間/人	=	34.1%減

2017年2月	売上	81.90%	粗利	127.9%
2017年3月	売上	87.10%	粗利	96.90%
2017年4月	売上	115.2%	粗利	114.1%
2017年5月	売上	111.2%	粗利	113.3%

【2017年6月】外勤メンバー含む、全社員へのテレワーク導入

【2017年6月】外勤メンバー含む、全社員へのテレワーク導入

2016年6月 40.3時間/人	➔	2017年6月 17.6時間/人	=	56.4%減
2016年7月 39.7時間/人	➔	2017年7月 15.7時間/人	=	60.5%減
2016年8月 39.0時間/人	➔	2017年8月 30.5時間/人	=	21.8%減
2016年9月 36.2時間/人	➔	2017年9月 29.4時間/人	=	18.8%減
2016年10月 35.9時間/人	➔	2017年10月 28.7時間/人	=	20.0%減
2016年11月 50.6時間/人	➔	2017年11月 30.4時間/人	=	39.9%減
2016年12月 37.2時間/人	➔	2017年12月 26.4時間/人	=	29.0%減

2017年6月	売上	117.8%	粗利	119.7%
2017年7月	売上	99.60%	粗利	92.07%
2017年8月	売上	117.6%	粗利	127.1%
2017年9月	売上	122.0%	粗利	128.6%
2017年10月	売上	131.2%	粗利	109.6%
2017年11月	売上	211.8%	粗利	199.8%
2017年12月	売上	112.7%	粗利	110.4%

残業
41.3%減

売上
104.8%

粗利
113.6%

人時生産性
107.6%

結果として、社員満足も高まった

ブランディング力の向上

1 2016.11.28
総務省「テレワーク先駆者百選」受賞



2 2017.11.18
ブランディング事例コンテスト
『大賞』『中小企業特別賞』ダブル受賞



3 2018.1.19
ビジネスプランコンテストおかやま
ファイナリスト



ブランディング力の向上

4 2018.1.27 日経MOOK
実践!テレワークで「働き方改革」
にて、弊社のテレワーク取り組み事例が紹介



5 2018.11.29
総務省「テレワーク先駆者百選」
総務大臣賞受賞



6 採用力向上 (新卒採用)

山陽新聞 2019年(平成31年)4月5日 金曜日 地方経済

岡山の希望就職先 来春卒大学生ら本紙調査

両備グループ 1位

「安定性がある」との理由で選
1位の両備グループは「社風
がよい」「知名度が高い」の他、
「安定性がある」との理由で選



「社風がよい」が3年連続で最も多
志望理由(複数回答)は「社
風がよい」が3年連続で最も多

来春卒業予定の大学生らの
希望就職先ランキング

順位	企業名
1(2)	両備グループ
2(1)	中国銀行
3(3)	両備システムズグループ
4(8)	山陽新聞社
5(4)	トマト銀行
6(9)	WORK SMILE LABO
7(5)	天満屋
8(14)	ベネッセインフォシエル
9(6)	ハヤシ
10(7)	おかやま信用金庫
11(10)	日本がバヤオハヨーホールディングス
12(11)	廣榮堂
13(-)	菅公学生服
14(26)	岡山情報処理センター
15(15)	クラブ
16(17)	イタミアート
17(13)	カイトックホールディングス
18(18)	セキスイハイム中四国グループ
19(30)	ベネッセコーポレーション
19(40)	岡山村田製作所

※カッコ内は前年順位、-はランク外

山陽新聞社(岡山市)は4日、2020
年春卒業予定の大学生らを対象にした地場
企業の希望就職先ランキングを発表した。

1位は両備グループ(同、前年2位)だっ
た。(平田亜沙美)

「社風がよい」志望理由最多 職場環境を重視

「社風がよい」志望理由最多
同事務局は「知名度の高さ
で企業を選ぶ傾向が見られ
る。一般には知られていなく
ても技術力の高い製造業の会
社などにも目を向け、有意義
な就活をしてほしい」として
いる。

「就活DASH!事務局」が
昨年7月から今年3月につ
て実施した。同社主催の合同
就職説明会や就職情報サイト
に参加、登録した学生ら延べ
1112人が回答。ランキン
グは第1希望の企業を5点と
するなどして総合点を集計し
た。

(電子版「山陽新聞デジ
タル」にランキング詳細)

- 衰退業界
- 業界が一昔前のイメージ
- 企業規模は30名以下
- BtoBで学生への知名度は低い

- 2017年 新卒採用実績 5名
- 内定辞退 0名
- 2018年 新卒採用実績 5名
- 内定辞退 0名
- 2019年 新卒採用実績 3名
- 内定辞退 2名

岡山県内で 6位

7 採用力向上（中途採用にも効果があった）

求人票に『在宅勤務可』と一文あるだけで、
応募者数が向上。
さらに、優秀な人財からの応募も増えた。

ハローワーク

124%

ホームページ

241%

3年前に比べ中途採用の求人への応募は **3倍**

中小企業のテレワーク導入のポイント

- 仕事を単に社外に持ち出して行うことではない

➔ **いかに職場と同じ環境を
会社外で整えられるかが重要**

テレワーク導入への3つの課題

労務
管理

コミュニ
ケーション

情報
セキュリティ

労務管理

●出退勤をクラウド管理

コスト:一人300円/月



➔ 携帯で操作ができる

➔ 出勤退勤時の位置情報が確認できる

KING OF TIME使用

●クラウド型ログ管理システム

コスト:12,000円~/月



➔ 社員の作業時間・作業内容の見える化

➔ 社内ネットワークに入っていないなくてもPC作業の全記録が管理できる

Ahkun AutoDaily使用

労務管理②

●テレワーク規程の作成

テレワーク規程

株式会社 WORK SMILE LABO

- ➔ 自社の職種や、社内の状況に応じて作成
- ➔ 労働基準監督署へ提出
- ➔ 定期的に見直しをする

第1章 総則

第1条 (テレワーク規程の目的)
この規程は、就業規則に基づき、従業員がテレワークで業務を遂行するための公正な環境を確保することを目的とする。

第2条 (テレワーク業務の範囲)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）に限り適用される。ただし、就業規則第1条第1項第3号に規定する業務（業務上の職務）に限り適用される。

第3条 (テレワークの利用)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第4条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第5条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第6条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第7条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第8条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第9条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第10条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第11条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第12条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第13条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第14条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第15条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第16条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第17条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第18条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第19条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

第20条 (テレワークの申請)
本規程は、就業規則第1条第1項第2号に規定する業務（業務上の職務）を遂行するために適用される。

コミュニケーション

●Web会議システムを活用

コスト:1万円~3万円/月



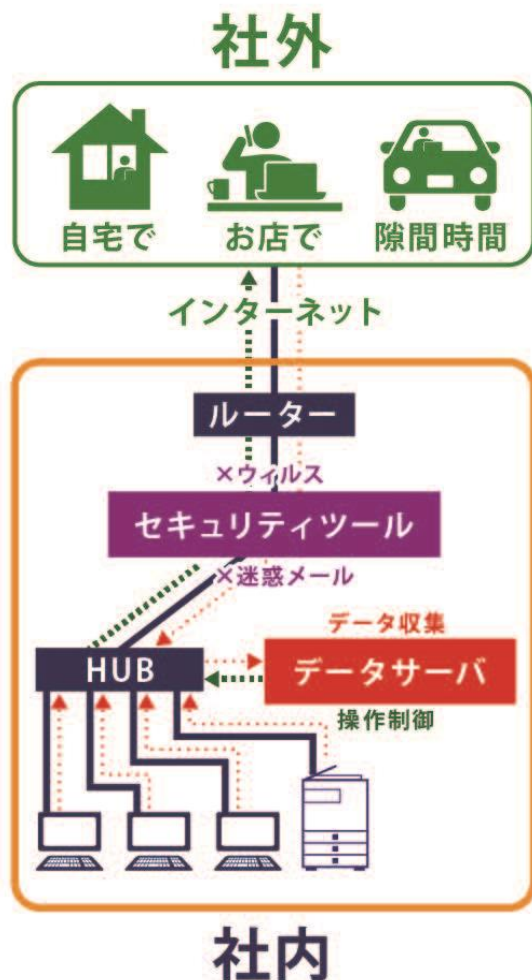
- ➔ 社内テレビを設置して、テレワーク勤務者と常時接続
- ➔ 携帯電話やPCのマイク・スピーカーで社内と会話
- ➔ 複雑なやりとりも画面共有で解決
- ➔ 会議にも参加
- ➔ お客様とも簡単に商談

WebEX使用

情報セキュリティ①

● 情報の一元管理と統合セキュリティ対策

コスト:30,000円~/月



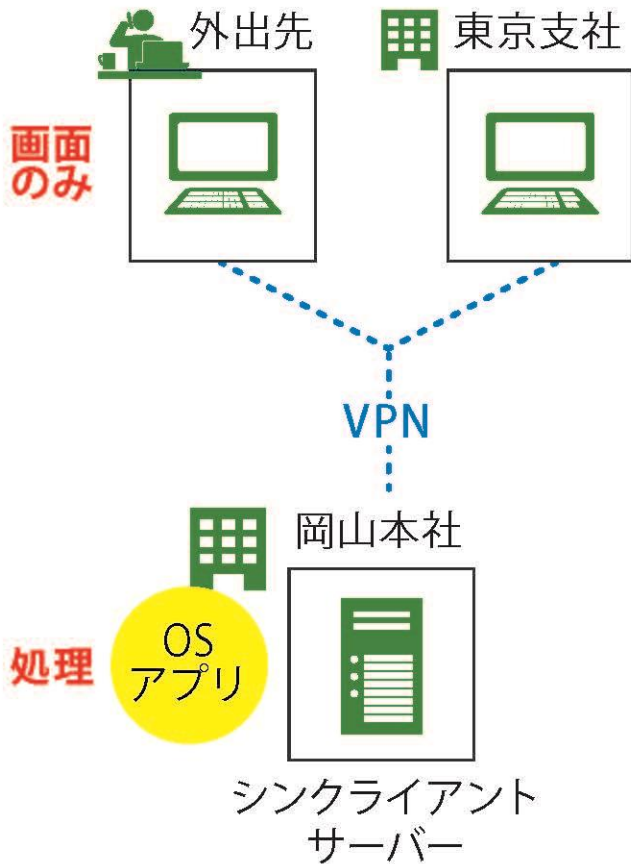
- ➔ 社内データは全て共有サーバーで管理
- ➔ 社内のセキュリティレベルを高める (ネットワークセキュリティ対策)
- ➔ クライアントPCの集中管理 (作業の見える化・操作制御)
- ➔ 外部からのリモートアクセス

UTM/リモートアクセスVPN/ Ahkun AutoDaily使用

情報セキュリティ②

●シンククライアント化

コスト:30,000円~/月



- ➔ サーバー側にOSやアプリを集約し、利用者端末では最小限の処理のみ
- ➔ 利用者端末には画面イメージを送るだけなので、データ漏えいのリスクを低減
- ➔ パソコンの操作が軽い
- ➔ クライアントPCの集中管理
(作業の見える化・操作制御)
- ➔ 社内データは全て共有サーバーで管理

UTM/リモートアクセスVPN/ シンククライアント

中小企業のテレワーク導入のポイント

① 導入

中小企業は資金や運用する人財の確保が難しい

➔ 既存の商材やサービスを活用し、コスト面や導入面のハードルを下げる。



➔ 運用面は社内ルールと規定を作り、不足している部分を補う。

② 活用

導入後はテレワークを活用する社員と、しない社員が出てくる

➔ 全職種の生産性を見える化し、評価に連動させ、テレワーク活用を推進する

とにかく少人数でもいいので始めることが重要

テレワークを含めた 働き方改革を成功させるためのポイント

生産性が高まる環境を整えても、
社員さんの意識が変わらなければ、
活用されず失敗に終わる。



社員全員が生産性を意識し、
行動してもらって初めて成果が出る

テレワークを含めた 働き方改革を成功させるためのポイント

① 評価制度

評価すべきポイントを変える

時間軸



成果軸

人時生産性の導入

- ➡ 1時間あたりの成果を評価ポイントの中で高くする
- ➡ 数値化しやすい営業だけではなく、間接部門にも成果を数値化するような工夫

働き方改革を成功させるためのポイント

全体	評価重要度	
	リーダー(委員長)	一般・サブリーダー
2019第3四半期評価基準項目		
ワクスマ改善案の提案実績(お客様視点の改善案,生産性向上の改善案)	200	200
方針、ルール、規定の理解度(理解度テストの点数)	150	150
方針、ルールの実行度合(ルールを守った行動をしているか?)	200	200
人時生産性(成果/月総労働時間)	150	300
チーム時生産性(成果/月チーム総労働時間)	300	150
部下・後輩に仕事を教えているか?先輩・上司に仕事を聞いているか?	200	200
8S活動への取組み	100	100
委員会活動への取組み	100	100
	7000	7000

各チーム

チーム第3四半期目標の達成率	300	200
個人第3四半期目標の達成率	200	300
チーム第3四半期方針(具体的行動)の達成率	300	200
個人第3四半期方針(具体的行動)の達成率	200	300
	5000	5000

テレワークを含めた 働き方改革を成功させるためのポイント

会社もテレワークを実施する人も
互いに安心して仕事ができる環境をつくる

② 就業規則 テレワーク規程を新たに作成

- ➔ 自社の職種や、社内の状況に応じて作成
- ➔ 労働基準監督署へ提出
- ➔ 定期的に見直しをする

テレワークを含めた
働き方改革を成功させるためのポイント

働きやすさ

働きがい

➔ 両方への取り組みをバランスよくすること

働き方改革と中小企業

地方の中小企業こそ、働き方改革を実践すべき

なぜなら、

多くの中小企業が直面している
「経営課題」を解決できる

採用力
向上

生産性
向上

残業
問題

育休
産休

介護

働き方改革と中小企業

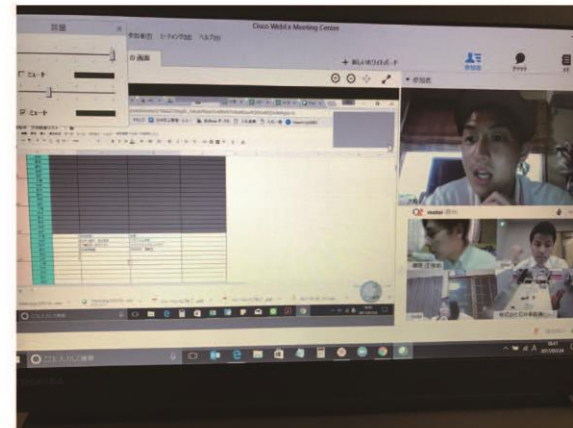
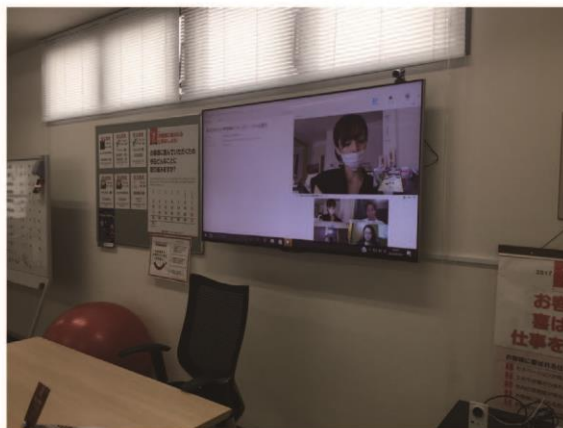
日本の99.7%が中小企業。
発想を変えて、「働き方改革」をチャンスと捉える

多様な働き方に応えられる体制を早く整える

社員満足度向上

採用力向上

離職防止



一緒に“新しい働き方”始めませんか？

ご清聴ありがとうございました



「働く」に笑顔を!

